

回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
第1回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	ワークショップとは？（7つの側面、話し合うルール作り・聞くトレーニング）	授業の目的と全体像を理解する ワークショップとは何かを説明できるようになる		
第2回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	ワークショップの基本（ブレインストーミング・CARRトレーニング他）	ワークショップの基本を具体的な事例をもとに学び、使うことができる。		
第3回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	ダイヤモンドランキング(仕事に求めるもの)	「仕事に求めるもの」について、ダイヤモンドランキングの手法を用いて考え、自分なりの意見・感想を述べるができる。		
第4回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	トラストゲーム（他者を感じて）	他者の身体と共有された空間を感じ取れるようになる		
第5回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	レスポンスゲーム（ひとからひとへ波のように伝わって…）	他者の身体からの表現に答えて、身体で表現できる		
第6回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	差別・偏見について考える①『宇宙人に自己紹介』『ちがいのちがい』より	「宇宙人に自己紹介」「ちがいのちがい」のワークより、『違いを豊かに』を実感を持って理解することができる。		
第7回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	差別・偏見について考える②『熱気球』より～結婚の条件～	『熱気球』の手法を使い、「結婚の条件」をグループワークを通して考え、自分なりの意見・感想を述べることができる。		

第8回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	差別・偏見について考える③ 多数派少数派・青い目茶色い目 【DVD】	被差別の感覚を簡単なゲームを通して体験しつつ「青い目茶色い目」のDVDを視聴し、自分なりの意見・感想を述べることができる。		
第9回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	イメージを共有して（大縄跳び）	グループでイメージを共有して表現できる		
第10回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	Back to Back(絵を描くワーク)	言葉によるコミュニケーションの可能性と不可能性について語れる		
第11回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	粘土のワーク	「自己」について形象化できる 「自己」について考えることができる		
第12回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	貿易ゲーム① 南北問題を体験を通して考える	ゲームを通して世界の状況や日本の立ち位置を実体験として学び、その時に浮かんだ感覚や感情、思いを振り返ることで、世界の抱える南北問題について考えることができる。		
第13回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	貿易ゲーム② フォトランゲージ	前時の振り返りを丁寧にを行い、「世界の家族」からフォトランゲージの手法でとらえ直し、『豊かさとは何か』について、自分なりの意見・感想を述べるができる。		
第14回	演習	中村英一郎 村尾敏彦	マインドマップでここまでのまとめとレポート作成	体験を言語化できるようになる。 雑多な情報の整理の仕方を学ぶ。 自分が大切にしていることに気づく。		
第15回	演習	村尾敏彦 中村英一郎	レポートの振り返りとオークション（卒業までにつけたい力）	自身の大学生活についてビジョンをもてる。 オークションの手法を使い「卒業までにつけたい力」をゲーム性を帯びながらも、各人や全体の動向が何であるかを知ることができる。また、そこから、自分なりの意見・感想を述べることができる。		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	演習	教室	2	視聴覚教材を活用する	90分×15

閉じる